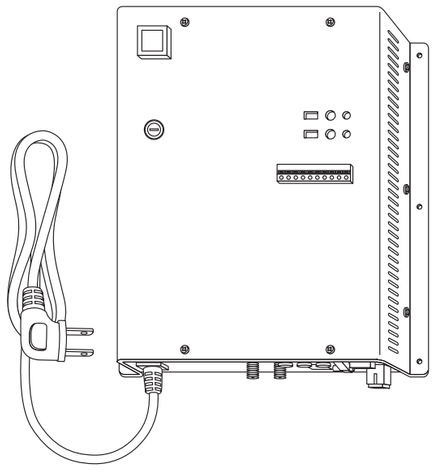
日本アンテナ

取扱説明書・施工説明書

このたびは、日本アンテナ製品をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。工事の際には施工説明書に従って施工をおこなってください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。また、正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「安全上のご注意」をごらんください。

取扱説明書



お客様窓口専用ダイヤル　(03) 3893-5243　ご利用時間　9:00～18:00（土・日・祝祭日・弊社休業日を除く）

情報通信が仕事です。
日本アンテナ株式会社
本社／〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8 ☎(03) 3893-5221（大代）
ホームページアドレス http://www.nippon-antenna.co.jp/

※製品改良のため、仕様、外観の一部を予告なく変更することがあります。

D842045100　平成21年4月

監視装置

Model NMO726A

目　次

表紙　説明の始まるページ
〔取扱説明書〕
取扱上のご注意……1
安全上のご注意……2
廃棄上のご注意……2
特長……3
運用手順……3
各部の名称および機能……4
性能規格……5
RFレベル低下監視について ……6
光パワー断監視について……7
接点監視について……7
監視ソフトウェアについて……8
〔施工説明書〕
設置場所・条件……9
取付方法……9
同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法……9
光コネクター接続のご注意 ……10
機能アースのとり方 ……10
RFレベル低下監視　設定・接続方法 ……11
光パワー断監視　設定・接続方法 ……12
接点監視　設定・接続方法 ……12
LANの接続 ……13
アラーム確認方法 ……14

取扱上のご注意

取付工事は、専門の施工業者にご依頼ください。
本器で生命や財産に影響のある監視をおこなわないでください。これらの監視をおこなうことは意図されておらず、保証されません。

安全上のご注意

絵表示について

この「安全上のご注意」、「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになるかたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 危険	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
絵表示の例	
	△記号は注意（注意・警告・危険を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。）が描かれています。

⚠ 危険

●光ファイバーには不可視レーザー光が放射されています。目に障害を与える危険性がありますので、絶対に光ファイバーのビームをのぞき込まないでください。

⚠ 警告

●ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。また、同軸ケーブル重畳方式にて動作可能な機器は、表示された重畳電圧を供給してください。その際は電源プラグをコンセントから抜いてご使用ください。

●本器に水が入ったり、本器の内部がぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり（熱器具に近づけたり）引っぱったりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのままご使用になると火災・感電の原因となります。

●万一、本器を落としたり、破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●本器の上面カバー（接続端子部カバーは除く）をはずしたり、本器を改造したりしないでください。
また、本器の内部には触れないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

●万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

●万一、異物が本器の内部に入った場合は、まず、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
（特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。）

⚠ 注意

●本器の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。また、本器が変形し、火災・感電の原因となることがあります。

●直射日光の当たる所、温室やサンルームなどの温度や湿度の高いところに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

●湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所（調理台や加湿器のそば）に置かないでください。また、振動のある場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

廃棄上のご注意

本器のすべて、または部品を廃棄する場合には、自治体の定めた条例にしたがって処理してください。

アラーム確認方法

●各監視項目の設定およびソフトウェアの設定が全て完了しましたら、アラームの確認をおこないます。

⚠ 注意　必ず以下の確認方法をおこなってアラームの確認をしてください。正しく設定されていませんと、Eメールなどのアラームが発生しません。

●RFレベル低下監視　アラーム確認方法

①入力した同軸ケーブルを抜いてください。PCの監視画面が「正常」から「異常または未接続」に変化することをご確認ください。

②Eメールが送信されたことをご確認ください。

③上記2つが確認できましたら、再び同軸ケーブルを入力します。その際、再びEメールが送信されます。

④アラーム確認完了です。

●光パワー断監視　アラーム確認方法

①入力した光ファイバーケーブルを抜いてください。PCの監視画面が「正常」から「異常または未接続」に変化することをご確認ください。

②Eメールが送信されたことをご確認ください。

③上記2つが確認できましたら、再び光ファイバーケーブルを入力します。その際、再びEメールが送信されます。

④アラーム確認完了です。

●接点監視　アラーム確認方法

①監視対象機器の接点出力条件（アラーム条件）をご確認ください。監視対象機器がアラーム条件の状態にすることが可能ならばその状態にし、できない場合は、ケーブルを抜いてください。PCの監視画面が「正常」から「異常または未接続」に変化することをご確認ください。

②Eメールが送信されたことをご確認ください。

③上記2つが確認できましたら、監視対象機器を正常な状態に戻してください。またはケーブルを再び接続してください。その際、再びEメールが送信されます。

④アラーム確認完了です。

以上で、本器の設定は全て完了です。
本器メンテナンスとして定期的に上記アラーム確認することを推奨します。

特　長

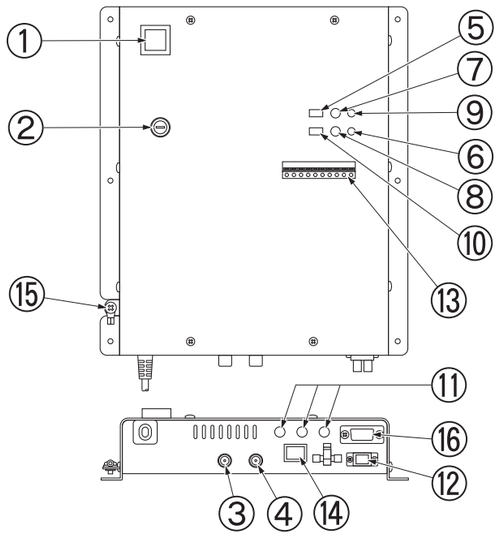
1．RFレベル低下、光パワー断、接点のSNMP対応多機能監視装置です。
2．Internet ExplorerなどのWebブラウザに対応した簡易監視ソフト（内蔵Webサーバ）を搭載しており、高価なマネージャソフトが不要です。
3．状態変化時にEメールですばやく通知（最大5件登録）することができます。
4．SNMPに対応しているので、マネージャソフトとの連携で大規模な監視の一部として監視が可能です。
5．RFレベル低下監視は70～2602MHz、多チャンネル対応で監視対象機器のRF出力モニターなどとつなぐことで既設のシステムを監視するのに最適です。
6．光パワー断監視により、光送信機、EDFAの出力断やONU（光受信機）の光入力監視も可能です。
7．端子台接続の接点入力が5点あり、様々なアラーム接点出力機器を監視できます。

運用手順

導入から運用までの流れを以下に示します。

監視対象機器の決定	●監視対象機器の性能確認 ●監視対象機器の監視システム構築 ●本器との整合性確認
⇩	
各監視ポートの内容理解 および入力条件の把握	●本取扱説明書、施工説明書の内容理解 ●本器入力条件の把握 ●設置場所・必要部材の確保
⇩	
施工 設定・接続	●取付工事 ●各監視ポートの設定・接続
⇩	
ソフトウェア設定	●監視装置ソフトウェア設定
⇩	
アラーム発生確認	●設定確認 ●Eメール発信確認
⇩	
監　視	●運用開始

各部の名称および機能



①	P.L付電源スイッチ（カバー付）	ACC電源のON／OFFや本体再起動をおこなうスイッチです。 ON時に緑色で点灯します。
②	ヒューズ（定格1.25A）	ヒューズが溶断した場合は、原因を取り除いてから、予備ヒューズと交換してください。
③	RF入力端子	VU（CATV）とBS・CS-IFのライン入力端子です。 性能表に基づいて、波数に適したRF信号を入力します。
④	RF入力モニター端子	RF入力端子より20dB低い値を示します。
⑤	VU（CATV）帯 設定切換スイッチ	VU（CATV）帯のRF監視設定時に "設定" 側に切換えます。 設定完了後は "監視" 側に戻します。
⑥	BS・CS-IF帯 設定切換スイッチ	BS・CS-IF帯のRF監視設定時に "設定" 側に切換えます。 設定完了後は "監視" 側に戻します。
⑦	VU（CATV）帯 設定調整ボリューム	VU（CATV）帯のRF監視設定時に閾値の調整をします。
⑧	BS・CS-IF帯 設定調整ボリューム	BS・CS-IF帯のRF監視設定時に閾値の調整をします。
⑨	VU（CATV）帯 設定確認ランプ	VU（CATV）帯のRF監視設定時に閾値確認用ランプ（赤）です。
⑩	BS・CS-IF帯 設定確認ランプ	BS・CS-IF帯のRF監視設定時に閾値確認用ランプ（赤）です。
⑪	RF監視設定チェック端子	RF監視設定の調整確認ができます。 赤：VU（CATV）　青：BS・CS-IF　黒：共通グランド
⑫	光入力アダプター	SC-SPC研磨の光コネクターを入力します。
⑬	接点入力端子	監視対象機器と端子台接続します。
⑭	ネットワークインターフェース（RJ-45）	Ethernet 10BASE-T／100BASE-TX（オートネゴシェーション対応）
⑮	機能アース端子	アース線はφ1.6～2.0mmの被覆銅線で完全に接地してください。接地が不十分ですと避雷回路が働かず、機器や施設の故障などの原因になることがあります。
⑯	弊社保守用D-sub端子	弊社保守用端子ですので、使用できません。

⚠注意　必ず指定されたヒューズ（タイムラグヒューズ）をご使用ください。指定外品のご使用は故障の原因になります

LANの接続

●出荷時はDHCP機能はOFFとなっています。下記の手順に沿ってログインしてください。

①本器とPCをLANケーブルでつないでください。
PCを直接つなぐ場合はクロスケーブル、ハブなどとつなぐ場合はストレートケーブルをご使用ください。
LANケーブルはカテゴリ5以上のUTPをご使用ください。

②PC側のIPアドレスを192.168.1.××（××は1～254で99以外の任意）、サブネットマスクを255.255.255.0に設定してください。

③Internet Explorerのアドレスバーからhttp://192.168.1.99/へ移動してください。

④ログインページが表示されますので、ユーザー名：「web」、パスワード：「web」と入力します。

⑤「GPIOポート監視画面」が表示されますので、必要な設定をおこなってください。

⑥設定は付属CD内の「監視装置ソフトウェア操作マニュアル」をご覧ください。

⚠注意　必ず「監視装置ソフトウェア操作マニュアル」をお読みください。必要な設定がされていないと正しく動作しません。

ポイント　SNMPによる監視をおこなう場合でも、必ず本器の設定が必要となります。
SNMPの設定は付属CD内「監視装置ソフトウェア操作マニュアル」をご覧ください。

光パワー断監視　設定・接続方法

①入力する光コネクターがSC-SPCであることをご確認ください。(SC-UPCも接続可能です。)

②光パワーメーターで光パワーを確認し、＋3～－12dBmであることをご確認ください。確認後、向きに注意して接続してください。

光コネクターの接続はP.10の「光コネクター接続のご注意」を必ずお読みください。

以上で完了です

⚠ 注意　本器に光入力レベル＋3dBm以上を絶対に入力しないでください。機器故障の原因となります。

接点監視　設定・接続方法

①監視対象機器が無電圧接点(ドライ接点)あることをご確認ください。

②使用するケーブルが以下の範囲のものかご確認ください。

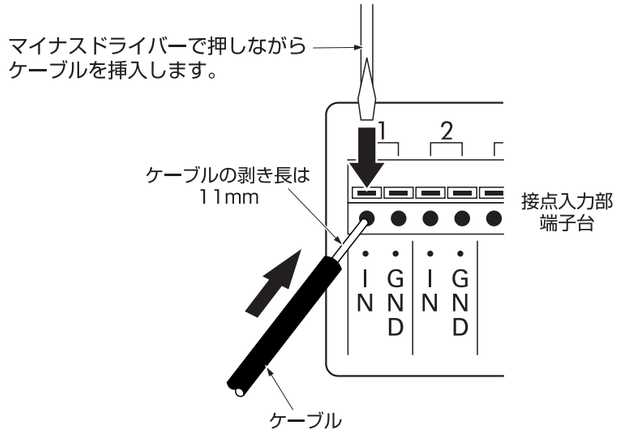
単　線：φ0.4mm(AWG26)～φ1.2mm(AWG16)
より線：0.2mm²(AWG24)～1.25mm²(AWG16)

③本器の電源が切れていることをご確認ください。(電源SWのランプが消灯)

④端子台の上部をマイナスドライバーで押しながらケーブルを差し込んでください。
(推奨マイナスドライバー：軸径φ3、刃先幅2.6mm)

⑤ケーブルを監視対象機器の接点部と接続してください。

⑥電源を入れて、設定完了です。



⚠ 注意　ケーブルの抜差しは必ず電源を切った状態でおこなってください。機器故障や感電の原因になります。

性能規格

	項　　目	性　　能				備　　考
RFレベル低下監視	周波数帯域 (MHz)	70～770			1000～2602	
	監視波数 (波)	1～4	5～16	17～64	20～36	
	RF入力レベル (dBμV)	82±5	76±5	70±5	70±5	
	アラーム発生条件	(総入力電力)－10dB以下			(総入力電力)－10dB以下	
	入力モニター (dB)	－20				
	入力インピーダンス (Ω)	75				F型
光パワー断監視	適正光入力レベル範囲 (dBm)	＋3～－12				
	光波長 (nm)	1310±10、1550±10				
	光コネクター	SC-SPC				
	光コネクター反射減衰量 (dB)	40				
	アラーム発生条件	－15dBm以下				1550nm時　※1
接点監視	接続対象	無電圧接点(ドライ接点)機器				
	最大接点数	5				
	使用可能電線範囲	単　線：φ0.4mm(AWG26)～φ1.2mm(AWG16) より線：0.2mm²(AWG24)～1.25mm²(AWG16)				剥き線長11mm
	アラーム発生条件	正常：ショート 異常：オープン				
LANインターフェイス		10BASE-T／100BASE-TX				
監視方式		内蔵Webサーバー、SNMPv3				
使用温度範囲 (℃)		－10～＋40				本体周囲温度
電源電圧 (V)		AC100(50／60Hz)				
消費電力 (W)		6				
耐雷性 (kV)		±15(1.2／50μS)				
外形寸法 (mm)		248(H)×222(W)×43.8(D)				突起物含まず
質量 (kg)		約1.0				

※1　1310nm時は－16dBm以下

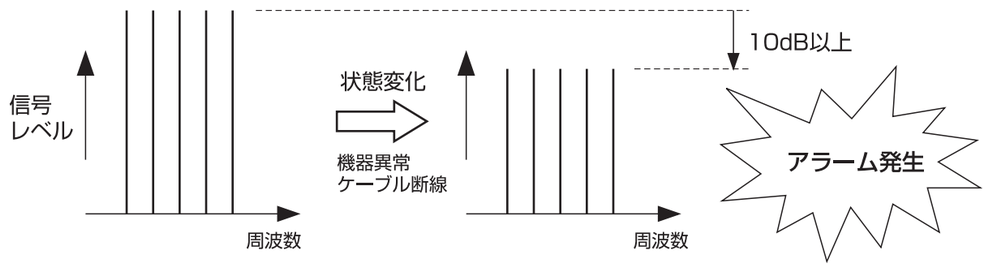
RFレベル低下監視について

本器はCATVや共聴システムなどのTV信号の停波・断線などの監視をおこないます。
監視対象はVU･CATV帯（70～770MHz）およびBS･CS-IF帯（1000～2602MHz）のTV信号です。
アラーム発生条件は入力される総電力レベルが10dB以上低くなった際に異常と判断します。

ポイント 多チャンネル信号を監視する場合、その信号の1波だけが10dBダウンしてもアラームは発生しません。全ての信号が10dBダウンした状態になったら、アラームが発生します。

また、監視対象機器の出力モニターを利用して本器に入力する場合、入力モニター（−20dB）がありますので、保守・管理時にご使用ください。

アラーム発生イメージ



ポイント RFレベル低下監視は必ず設定をおこなってください。
運用レベルや波数が変わった際には、再度設定が必要になります。

●RFレベル低下監視の設定・接続方法に関してはP.11の「RFレベル低下監視 設定・接続方法」をご覧ください。

RFレベル低下監視　設定・接続方法

●VU（CATV）帯信号の設定

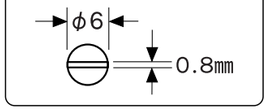
①監視するRFの波数をご確認ください。
アナログ波とデジタル波が混合されたシステムでは、デジタル波のレベルがアナログ波に比べ、10dB低いレベルで運用されています。その場合、デジタル波の波数は10波でアナログ1波分と計算されます。

例：アナログ9波、デジタル40波（アナログに対し−10dB運用）の場合
●デジタル40波→アナログ4波相当
9波+4波＝13波 ⇨ RF入力レベル　76±5dBμV（性能表参照）

例：デジタル40波のみの場合
●アナログ波がないので、そのまま40波の仕様 ⇨ RF入力レベル　70±5dBμV（性能表参照）

②上記波数を確認後、性能表の入力レベル範囲内のRF信号を入力してください。入力レベルが合わない場合はアッテネーターなどを使い、必ず入力レベル範囲内にしてください。

●ボリュームの寸法



③RF監視設定部の切換スイッチを "設定" 側（右側）へ切換えます。

④調整ボリュームを少しずつ右へ回していき、右側のランプが赤く点灯するところで止めてください。調整ボリュームはランプが点灯しましたら、それ以上回さないでください。回し過ぎた場合、ランプが消灯するまでボリュームを左へ回し、再度点灯するポイントまで右へ回してください。点灯ポイントを大きくはずれますと、アラーム発生条件の−10dBがずれてしまいます。

設定確認方法

上記設定が正しくおこなわれたかを確認するために本器底面部に「RF監視設定チェック端子」があります。DC電圧を測ることができるテスターを接続し、**DC電圧が＋1.0～＋1.2Vの範囲内の値**になっているか確認してください。（切換SW "設定" 側、調整後）

また、調整ボリュームを全体的に回しても以下の状態の場合、設定を見直してください。

ランプが点灯するポイントがない（ボリュームを左右に大きく回しても赤く点灯しない）

切換スイッチが "設定" 側にあることをご確認ください。それでも点灯するポイントがない場合、入力レベルが高い可能性があります。再度波数・入力レベルをご確認ください。

ランプが消灯するポイントがない（ボリュームを左右に大きく回しても赤く点灯しつづける）

入力レベルが低い可能性があります。再度波数・入力レベルをご確認ください。

⑤RF監視設定部の切換スイッチを "監視" 側（左側）へ戻します。ランプが消灯することを確認します。
以上で設定完了です。

●BS･CS-IF信号の設定

BS･CS-IF信号の場合、波数･レベルを確認後、波数に関係なく70±5dBμV入力してください。
入力レベルが合わない場合はアッテネーターなどを使い、必ず入力レベル範囲内にしてください。
VU（CATV）設定と同様に③、④、⑤の順に設定してください。

⚠注意
●調整ボリュームのツマミは、径φ6mm以下のマイナスドライバーあるいは、調整用ドライバーを使用し、軽く回る範囲内で回してください。無理に回したり、押しつけると機器の故障の原因となります。
●切換スイッチは途中で止まらない様、確実に操作してください。

光コネクター接続のご注意

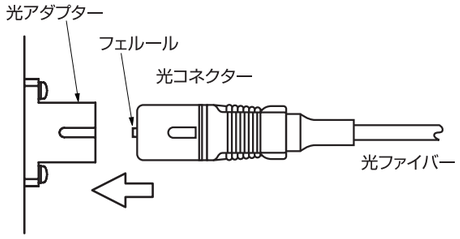
■光ファイバー、光コネクター取扱い上の注意

光ファイバー、光コネクターを取扱う場合は、専門の施工業者がおこない、以下に記載する内容を十分ご理解のうえ、ご使用ください。断線・損傷・特性劣化の原因となります。

光ファイバー

①光ファイバーのビームは絶対にのぞき込まないでください。
②取扱う光ファイバーの許容曲げ半径をご確認ください。
③光ファイバーによじりなどのストレスを極力かけないようにしてください。
④光ファイバーを強く引っ張らないでください。
⑤光ファイバーの余長収納時、フタなどに挟まらないように細心の注意をはらって配線してください。

光コネクター



①光コネクターは接続毎に、必ずフェルール端面を光コネクター専用クリーナー、またはキムワイプなどにアルコールを浸して、きれいにクリーニングしてから接続してください。
②光コネクターはホコリや汚れに非常に弱いため、汚れた手で取扱わないでください。特にフェルール部分には絶対に触らないでください。
③光コネクターの保護キャップは、接続時以外ははずさないようにしてください。汚れの原因となります。
④指定された光コネクターの種類、研磨方法以外の光コネクターは使用しないでください。
⑤光コネクターを機器に接続する際は、プラグの位置決め用の爪を、光アダプターの溝に合せてまっすぐに挿入してください。絶対に斜めには挿入しないでください。光コネクター、光アダプターの破損の原因となります。
⑥光アダプター内にマッチングオイルなどのグリスがはいらないようにしてください。本機器にはマッチングオイルなどの使用を特に必要としません。
⑦光コネクターを高所から落下させたり、硬い物にぶつけたりしないでください。

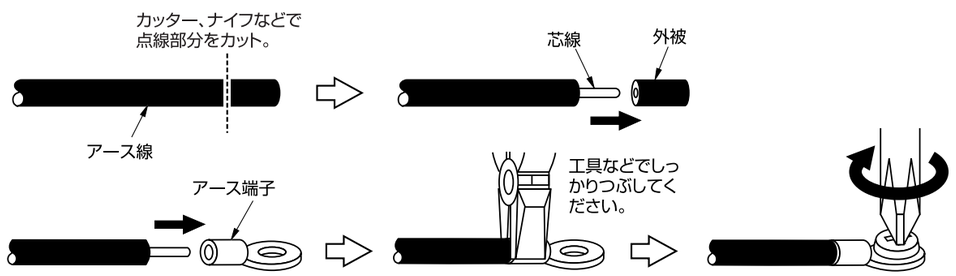
⚠危険 光ファイバーには不可視レーザー光が放射されています。目に障害を与える危険性がありますので、絶対に光ファイバーのビームをのぞき込まないでください。

⚠注意 光ファイバーが破損した時は、破片などに手を触れないでください。破片でけがをする恐れがあります。

機能アースのとり方

①アース線先端の外被をはがしてください。
②アース端子にアース線を通して、圧着工具でかしめてください。
③アース端子をシャーシにねじ止めしてください。

ポイント アース線はφ1.6～2.0mmのIV線を使用してください。



⚠注意 アース接続は必ずおこなってください。接地がおこなわれないと感電や機器の故障の原因となります。（接地抵抗 100Ω以下：D種接地工事）

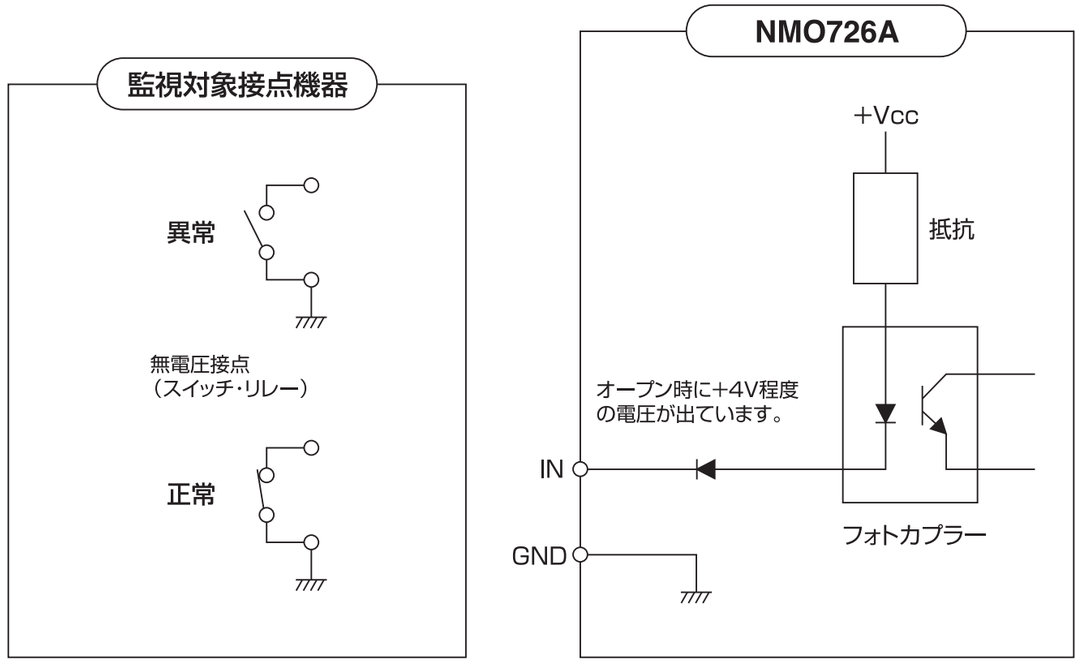
光パワー監視について

本器はCATVや共聴システムなどの光システムの光パワー断を監視します。
光送信機、EDFAの光出力断やシステム端末での光パワーの有無を監視するなどにお使いいただけます。
監視対象はSC型のSPC研磨（SC-SPC）の光コネクターを使用した光レベルが＋3～－12dBmまでの光パワーです。また、SC-UPCの光コネクターもご使用いただけます。
アラーム発生レベルは－15dBm以下です。（光波長1550nm時）
光波長1310nm時には－16dBm以下となります。

●光パワー断監視の設定・接続方法に関してはP.12の「光パワー断監視 設定・接続方法」をご覧ください。

接点監視について

本器は接点入力端子が備わっており、接点出力をもつ機器を監視することができます。
監視接点数は最大5点で、端子台接続となります。
監視対象機器は無電圧接点（ドライ接点）で、正常時にショート、異常時にオープンとなる機器が対象です。



⚠注意 監視対象機器の接点出力条件を必ずご確認ください。正しく接続しないと機器故障の原因となります。

●接点監視の設定・接続方法に関してはP.12の「接点監視 設定・接続方法」をご覧ください。

監視ソフトウェアについて

本器はWebブラウザに対応した簡易監視ソフト（内蔵Webサーバー）を搭載しております。
SNMPに対応しておりますので、マネージャーソフトとの連携で大規模な監視システムの一部として監視をおこなえます。
また、SNMPv3に準拠しており、セキュリティーの強化をしています。

各監視項目の状態がわかりやすい画面構成で、設定も容易におこなうことができます。
状態変化時にはEメール通知機能（最大5件登録）により、いち早く障害を確認することができます。
（状態変化とは監視対象機器が正常→異常、異常→正常、本器再起動時をいいます。）

〈監視画面〉

GPIOポート監視

MIB名称	ポート名称	入出力	状態
port1−Date	RFレベル低下監視 VU（CATV）	in	正常
port2−Date	RFレベル低下監視 BS・CS-IF	in	正常
port3−Date	接点1	in	正常
port4−Date	接点2	in	正常
port5−Date	接点3	in	正常
port6−Date	接点4	in	正常
port7−Date	接点5	in	正常
port8−Date	光パワー断	in	正常

監視ソフトの設定に関してはLANの接続後、付属CD内の「監視装置ソフトウェア操作マニュアル」をご覧ください。

●LANの接続方法に関してはP.13の「LANの接続」をご覧ください。

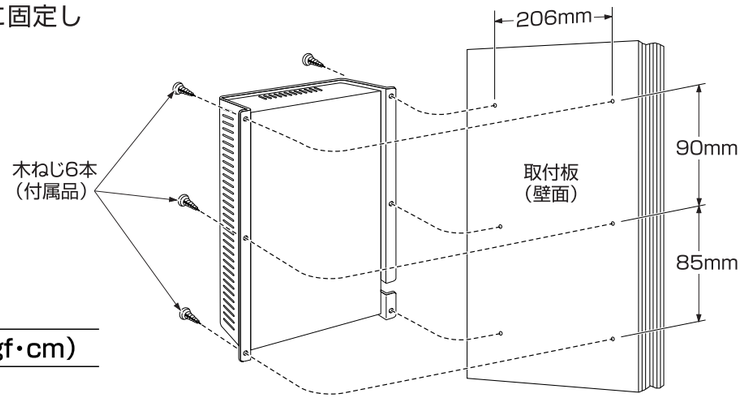
施工説明書

設置場所・条件

●低温（−10℃以下）や高温（40℃以上）の場所、直射日光にあたる場所、有害ガスなどの発生する場所はさけてください。
●電気配線、配線工作物の近くや、強い電磁波を受ける場所をさけてください。
●メンテナンスに容易な場所を選定してください。

取付方法

付属の木ねじで取付穴6箇所に固定してください。

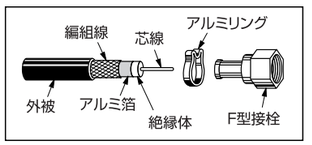


●締付トルク
1.0〜1.5N・m（10〜15kgf・cm）

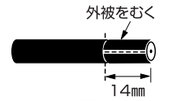
同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法（別売品）

◆用意するもの
カッターまたはナイフ、ハサミまたはニッパー、ペンチ。

■各部の名称

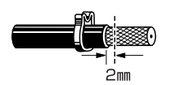


❶ カッター、ナイフなどで点線の部分をカットします。
（深さ1㎜程度）



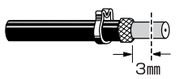
❷ 外被をむき、アルミリングを通しておきます。

❸ 外被から2㎜程度はなして編組線をていねいに切り落としてください。

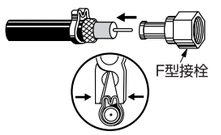


❹ 編組線をめくりあげます。

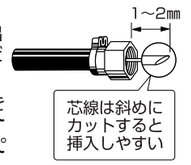
❺ 編組線から3㎜はなして絶縁体とアルミ箔を同時に切り、抜きとります。



❻ F型接栓をアルミ箔と編組線の間に挿入し、アルミリングをペンチなどでつまんでしっかりつぶしてください。



❼ 芯線の先端は1〜2㎜出し、斜めにカットしてください。
芯線が長いと接続端子を破損する場合があります。



ポイント

●絶縁体をカットするときは芯線をキズつけないように注意し、芯線と編組線が接触していないかをご確認ください。
●芯線に付着物がないか確認し、付着物がある場合には、きれいにとってください。
●芯線の外径が1.5mm以下の同軸ケーブルをご使用ください。外径が1.5mmより太い場合は、ピン付接栓をご使用ください。（※同軸ケーブルを取換える場合は、以前使用していた同軸ケーブルと芯線の外径が同じ同軸ケーブルをご使用ください。）

●F型接栓締付トルク　2.0N・m（約20kgf・cm）

⚠注意　加工の際、切りくずの扱いや工具の使用には十分注意してください。思わぬケガの原因となります。